

八女高で新たな自分に出会う。

国際交流事業海外研修(オーストラリアホームステイ)
7月29日～8月10日

7月29日(火)～8月10日(日)の13日間のオーストラリア海外研修に1年生11名と2年生4名が参加しました。ホームステイをしながら、現地のヒルズ学園での語学研修の他、現地校の生徒との交流などを行いました。またクィーンズランド大学訪問やブリスベン博物館見学など、異文化に触れて貴重な体験ができました。



機内でごはん



ヒルズ学園



英語の授業風景



故宮博物館



コアラを抱っこ



クィーンズストリートモール



バディーと一緒に



クィーンズランド大学



温かいホストファミリー



東大赤門前にて



スカイツリーにて



ANA



東大のゼミを体験



日本科学未来館



お台場のガンダムと



国会議事堂



OBの方との懇談会

東京研修(2年生) 8月5日～7日

8月5日(火)～8月7日(木)に、2年生の希望者35名が東京研修に参加しました。ANAや国会議事堂の見学、東京大学への訪問の他、本校卒業の東大大学院生をはじめ現役の大学生や、同窓会関東支部の方々ともお話しする機会を得ました。自分の将来について、更に具体的に考えることができるようになった有意義な研修でした。

八女高だより

平成26年度
第2号

<12月15日発行>

福岡県立八女高等学校
校長 内田 武文
編集 企画広報課

【本号の内容】

- ・祝九州大会出場
部活動実績
- ・研修報告
- ・OB紹介
- ・文化部発表会
- ・実用英語技能検定
- ・同窓会奨学金授与
- ・矢部村分収林研修
- ・立志源泉録

<シリーズ OB紹介(第11回)>

あきはら たかし
秋原 孝

八女中・八女高同窓会副会長

★プロフィール

昭和23年 中36回卒業
昭和27年 東京教育大学卒業
昭和27年 福岡県立伝習館高等学校教諭
昭和38年 福岡県立八女高等学校教諭
昭和58年 福岡県立柳河盲学校教頭
昭和60年 福岡県立八女高等学校教頭
昭和62年 福岡県立黒木高等学校校長
平成元年 福岡県立山門高等学校校長
平成3年 福岡県立山門高等学校校長退職
平成19年 八女中・八女高同窓会副会長



昭和18年4月、旧制八女中学に入学し、戦時中の勤労動員や、食糧不足など世の中が混乱する中、中学生生活を送った。敗戦の痛みを乗り越え、中学4年の時、有志が相寄り、野球部復活を果たした。バット1本、ボール数個で指導者もおられず、友人の知識を頼りに手探りの練習をする。(故)中島洋一先生に部長をお願い、試合に出るが、よく負けたのを覚えている。その後、2級後輩の平島直吉氏(第5代同窓会会長)が剛球投手として君臨し、九州大会に出場することができた。

中学卒業後上京して、大学で4年間野球に専念する傍ら、柔道にも励む。卒業後、伝習館高等学校教諭として奉職。恩師松木先生の不慮の事故死により、母校の教師として本校に帰る。保健体育の教科指導の他、平島君と野球部の部長、監督としてコンビを組み、後輩の指導にあたった。

本校在職中印象に残っているのは、体育科主任の時に現在の大運動会の基本的なスタイルである「ブロック対抗制」や、女子全員が演じる「創作ダンス」などを採り入れたことで当時としては特色のある運動会となった。他に「清水山鍛錬遠足」を始めたり、戦前に開始されたものの、戦時中の混乱の中で行われなくなっていた「寒稽古」を昭和52年に再開した。「寒稽古」は、校訓である「質実剛健」の伝統を守るためにも、是非必要であったし、八女高生の強靱な精神力と体力を養い、すべてのことに感謝する心と協調性を育むことができるということで、再開できて本当によかったと思っている。そして、現在も連綿と継続されていることに對して、誇りと感謝の思いで一杯である。

また、同窓会に係わる中で、忘れることができないのは、荒木万寿夫氏・稲富隆人氏の国会報告や心強い挨拶を頂いたことだ。また、芸能人では田中健氏や黒木瞳氏の参加などが印象に残っている。

輝かしい伝統が立派に受け継がれ、礼儀正しい後輩の生徒に接し、心強く、嬉しく思っている。益々の母校の発展のために、生徒諸君の一層の躍進を期待している。

こが じゅんこ
古賀 順子

通訳・翻訳・コーディネーター
平成11年よりパリ在住

★プロフィール

昭和50年 高27回卒業
昭和55年 明治学院大学フランス文学科卒業
昭和58年 早稲田大学大学院修士課程終了
昭和62年 パリ・ソルボンヌ大学修士課程終了
平成4年 国際キリスト教大学非常勤講師
平成12年 フランス法人C12EDITIONS
平成24年 独立後、通訳・翻訳・コーディネーター



パリで働き始めて15年になります。フランスが好きで、留学をする機会にも恵まれ、日本でフランス語を教えながら、年に1、2度、東京・パリを往復する生活を送っていました。その後、力を貸してくださる方々との出会いがあり、ルーブル美術館を始めとするフランス国立美術館の絵画をデジタル・アーカイブするというEUプロジェクトに参加しました。

いざフランスで仕事となると、何かと面倒なことにぶつかります。労働ビザを申請し、毎年更新する滞在許可証を受け取らねばなりません。日本、アメリカ、などヨーロッパ以外の国々に対するフランスの移住政策は厳しく、特に労働ビザを更新していくのは一苦勞です。住民証明を始め、納税証明、給与証明など、必要書類を揃えるだけでも時間と手間を取られます。申請窓口では、3～4時間は平気で待たされ、出直しも珍しくありません。嫌でも、自分が外国人であることを感じます。理不尽な対応にも、言葉を尽くして抵抗するより方途はなく、知らず知らずに強くなる自分を感じます。外見も違えば、言葉も違い、価値観も判断基準も全く異なる外国人が集まるパリの街ですから、魅力的であると同時に、自己を見失わないことが大切です。

自分は自分のペースで生きる自由を受け入れてくれるのがフランスです。それぞれの土地には、特有の力があります。豊かな水と土のびのび広がる筑後平野に育つことは、貴重な財産になります。冷たい空気が張り詰める真冬のパリで、ルーブル美術館へ向かう朝は、白い息を吐きながら自転車通学した日々を思い出します。地中海の抜ける青空と暑い太陽に輝くニースのシャガール美術館やマチス美術館は、夏休みに久留米の石橋美術館で見た青木繁『海の幸』、坂本繁二郎『放牧三馬』の感動と重なります。シェルブールの田舎の漁村に生まれたジャン＝フランソワ・ミレーの『晩鐘』に多くの人々が心打たれるのは、日々の労働に感謝する真摯な気持ちが万人に共通するからです。

未来は現在の延長にしかあり得ません。今、皆さんが熱中していること、一番好きなこと、大切なことに全力を尽くしてください。部活動、音楽、美術、地区のイベントなど、自分が一番自分らしく感じることを突き詰めていくと、必ずと道が開けます。自分に興味がないものは、どこへ行っても感じることはできません。逆に、自分の五感を使って得た実体験は、知らない土地へ行くと、さらに磨かれます。海外へ出るとは、生まれ育った地で培ったことを再確認し、さらに高めるためでなければ意味がありません。機会がある毎に、世界の街々を歩いてください。ここに住みたいと思う第二の祖国が見つかります。(jkoga.com・M・J)

部活動実績 (新人戦他)

祝 九州大会出場

- ◎水泳部
全九州高等学校選手権新人水泳競技大会 (於 熊本県)
- 50m背泳ぎ・400m自由形 下川 隼一(1年 筑後中出身)
 - 50m背泳ぎ・100m背泳ぎ 檀 亜香里(2年 筑後中出身)
 - 50mバタフライ・100m自由形 吉岡 莉帆(1年 筑後中出身)
 - 50m背泳ぎ・100m背泳ぎ 島崎 夏海(1年 福島中出身)
 - 200m背泳ぎ 吉瀬 綾乃(1年 筑後北中出身)
 - 200mメドレーリレー
 - 200mリレー 吉岡・檀・吉瀬・島崎

祝 県大会入賞

- ◎放送部
第29回福岡県高等学校総合文化祭
放送文化部
アナウンスの部 福田 成美(2年 荒木中出身)
- ◎放送部
第29回福岡県高等学校総合文化祭
弁論部門 溝上 賢史郎(2年 東山中出身)

祝 南部ブロック優勝

- ◎卓球部
福岡県高等学校新人卓球大会
女子個人 岡山 結季乃(2年 瀬高中出身)

祝 県大会出場

陸上競技部、男女バスケットボール部、剣道部、空手部、卓球部、水泳部、書道部、放送部、自然科学部生物班

警察表彰 本校生徒が踏み切りで横たわっていた人を救助し、警察署から感謝状をいただきました。

深町 亮介(写真右)
(2年 羽犬塚中出身)
山口 泰祐(写真左)
(1年 羽犬塚中出身)



最高の盛り上がりを見せた 文化部発表会！！

平成26年度 文化部発表会 10月1日

文化委員長 富久奈々（2年 筑後北中出身）



10月1日（水）文化部発表会が開催されました。今年は例年とは異なりサザンクス筑後で行われ、一味違った文化部発表会となりました。サザンクスの大ホールで行われたステージ発表では、どの部活動も立派なステージを活かした素晴らしい発表を行いました。大ホールならではの迫力のあるパフォーマンスや音響・照明など細かい演出を施した発表は、どれも圧倒されるもので、毎日遅くまで入念に準備していた努力を感じることができとても感動しました。

また、今年度お招きした和太鼓UNIT壱打による息のそろったパフォーマンスは観客を圧倒しました。力強い和太鼓の音色から勇気をもろうとともに、日本の伝統文化に触れることができ貴重な経験になったと思います。

時期も場所も違い、新しい挑戦ばかりの文化部発表会でしたが、客席の生徒のキラキラとした笑顔が今年度の文化部発表会大成功を物語っていたと思います。協力してくださった実行委員の皆さん、先生方、ご来場いただいた皆様本当にありがとうございました。



ダンス部の華やかな演舞



放送部によるYBCニュース



県大会出場の実力！吹奏楽部の演奏



映演部による上演



書道部によるパフォーマンス



生徒会による先生クイズ



太鼓パフォーマンス



生徒も太鼓の体験



全校生徒も一緒に大盛り上がり



華道部の作品



写真部の作品展示



ホームメイキング部の作品展示



大人気！美術部のポストカード



弁論部 溝上君のスピーチ

驚異の英検合格率！今年度、98%！

本校は昨年度から「英語教員指導力向上事業」の拠点校となっており、実用英語技能検定の受験料が約半額で受験できます。全校生徒が積極的に受検している中、今年度の合格率（最終合格）は3級100%、準2級100%（不受検を除く）、2級94%まで伸びています。（第1回（7月）、2回（11月）の平均合格率）現在は第3回（1月）に向けての準備中です。在学中の、2級・準1級合格を目指し、二次試験対策として一人一人に丁寧な模擬面接を行うなど全員に個別指導を行っています。

これからのグローバル社会を生き抜くためには、実用英語が不可欠です。八女高ではその社会で通用できる英語運用力を身につけようとしています。



面接練習の様子

八女中・八女高同窓会奨学金交付式 10月17日

10月17日（金）に八女中・八女高同窓会奨学金交付式を行いました。これは毎年在校生に対して同窓会より贈られるものです。

「態度・行動が本校生徒の模範となり、将来社会人としての活躍が見込まれる者」を対象とし、今年度は9名の生徒に年額12万円給付（返還なし）されました。

交付式では下川泰同窓会会長より生徒一人一人に交付決定通知書が手渡され、「同窓生の方が一生懸命働かれた中からいただいた心温まる、貴重なものだと思います。お気持ちを大切に、有意義に使わせていただきます。」と生徒代表がお礼を述べました。



下川会長より交付の様子

矢部村分収林研修 10月15日

10月15日（水）に本校の生徒会執行部10名が、本校職員3名、同窓会役員3名と矢部村分収林研修を行いました。これは本校と分収契約を結んでいる矢部村の森林において、生徒たちが下草刈りや間伐等の作業体験を行うもので昭和15年より続く伝統ある活動です。八女市役所矢部支部の方から「山林が果たす役割」と「分収林の現状」についての講義を受けた後、立っているのも大変なぐらいの急斜面でヒノキの間伐作業をしました。



森林組合の方のお話



急な斜面での作業

生徒会の木村公哉君（2年）は「自然に触れること、自然に感謝のすることの大切さに気づき、どんな仕事も自分のためだけでなく、世の中のためになっていることを学びました。」と語ってくれました。

立志源泉録（りっしげんせんろく） シリーズ第8回

このコーナーでは10回シリーズで八女高出身の偉人にスポットを当て、お一人ずつ紹介します。タイトルの立志源泉録とは、本校百周年記念誌の表題よりとったものです。

平井 光典（中学23回卒） 大正7年 八女郡長嶺村（現八女市）生まれ
医師であり、画家であり、詩人

九州医療専門学校を卒業後、筑後市和泉で平井医院を開業し、院長となる。画家としては、独立美術協会会員。また、詩人である。昭和38年、48年に独立賞を受賞。独立美術協会九州支部長を務めた。昭和49年、選抜展賞、県美術協会賞（会員展）、独立美術協会賞（審査員）受賞。サザンクス筑後大ホールの緞帳の原画は、同氏によるものである。平成7年、77歳で死去。

主要著書 詩集『絵本』・『花』、句集『匈奴』、『平井光典水墨画帖』、『わたしの法句経 Dh amma pade』、『木の葉集』など。



サザンクス筑後大ホールの緞帳



八女高校生徒会活動★
毎週正門前で挨拶運動実施中！